



大会宣言

本日、JR東日本輸送サービス労働組合大宮地方本部は、市民会館おおみや第8集会室において「第8回定期大会」を開催し、職場の過半数労働組合となるために、全職場から日常活動を基礎に輸送サービス労組の強化と飛躍を実現し、人間らしく生きる社会と職場を創造していくことを確認した。

大宮地本は、昨年の「長崎研修」を契機に、現地に立ち・感じ・想い・共感することを重要視した取り組みを創り出してきた。桶川での「平和さんぽ」では、戦後80年を越えて平和や憲法9条の重要性を再認識し、「余部鉄橋および福知山線脱線事故の現地踏査」では、事故から40年・20年の節目を迎え、改めて命を預かり安全にお客さまを送り届ける鉄道従事者としての使命を実感した。只見で開催した「拡大執行委員会」では、人口急減社会が進む中、今後50年を見据え首都圏一極集中ではなく、関係人口という関わり方も含めた地方創生の考え方を学んできた。そして、この各種の取り組みを中心的に担った仲間が職場に戻り、より多くの仲間に関与することにより、共感を得て大きなうねりを創り出している。今後も組合員一人ひとりが感性を磨き、私たちの運動の正当性を堂々と訴え、組織拡大を職場から実現していこう。

一方、会社は労使協議のあり方を大きく変えようとしている。労働組合への提案を経ずに社員周知を行った事象や、団体交渉で示した回答を会社都合で修正した事象など、信義誠実の原則を軽視する姿勢が顕著に現れている。さらに、7月1日付で発出された「社員の皆さんへ」では、『労使間の取扱いに関する協約』は有効期間内かつ、条文の読み替えにて暫定的な取扱いを確認したにも関わらず、「輸送サービス労組との協約は将来に向け失効する」と喧伝し、嫌悪感を持って輸送サービス労組に対する誹謗中傷を繰り返している。これらは、「未完の国鉄改革」にも見られた「労使合意は必要ない」とする考え方そのものであり、私たちはこのような労使関係の形骸化を許さない。そして、不当労働行為には決して屈することなく、正常で健全な労使関係を取り戻すまで、あらゆる手段を活用し毅然と闘い続けていく。

会社は「勇翔 2034」を掲げ、「変革 2027」に続く施策を生産性向上の名のもと次々と打ち出している。その象徴が、2027年春に予定されている京浜東北・根岸線の「ワンマン運転」である。私たちが守るべきものは、組合員の雇用・労働条件だけではなく、お客さまが「安全」で「安心」して利用できる鉄道である。この間相次ぐ大規模輸送障害が発生しているが、想定される首都直下地震などの自然災害や、凶悪事件などの異常時対応においても、安全・安心・サービスレベルの低下が予想されることから、首都圏における長編成ワンマン運転は認めることはできない。この間、関係線区を中心に行なっている街頭ビラ配布行動を継続し、国土交通省への署名活動をさらに広げ、お客さま・地域の皆さま、そして全ての働く仲間にとってより良い輸送サービスを実現していこう。

「安全は経営のトッププライオリティ」が絵に描いた餅になっている今、安全・安心を私たち輸送サービス労組が創り出していかななくてはならない。輸送サービス労組結成の目的でもある「健全な会社を取り戻す」ために、今年は「株主提案権」を行使してきた。また、都労委への救済申し立てや、労働局・労基署行動の実践、議員懇の仲間との連携を創り出し、笑顔と活気あふれる職場を取り戻すため奮闘してきた。私たち大宮地本は、「地域の声が社会を動かす」こと、そして「私たちの運動は世論を動かす力がある」ことを、この間の取り組みから学んできた。ガバナンス不全に陥っているJR東日本だけではなく、地域においても直面する課題の解決に向け、全ての仲間と連携し、明るい未来を切り拓いていこう。そのために、更なる組織強化・拡大を職場から創り出していこうではないか。

以上、宣言する。

2026年7月27日
JR東日本輸送サービス労働組合
大宮地方本部
第8回定期大会

JR東日本輸送サービス労働組合 大宮地方本部 第8回 定期大会

健全なJR東日本グループを取り戻すために
今こそ輸送サービス労組と共に立ち上がろう!!